

認知症について理解を深めてほしい

世界アルツハイマーデーのこの日、公益社団法人認知症の人と家族の会では認知症に対する理解を深めてほしいと、全国各地のライトアップ場所とリモート中継をつなぎ、YouTubeのライブ配信をしました。本県からは同会県支部つがる地域会世話役の秋田谷一さんが代表して活動状況などを紹介しました。

配信を終え、秋田谷さんは「コロナ禍のため集まることができず、認知症の方を介護する家族も孤立している。活動を通じて、そういう方々を支援するきっかけづくりになれば。つがる市は高齢化率が40%近いので、認知症をもっと身近な問題として捉え、多くの皆さんと協力しながら支援につなげていきたい」と話しました。

この日の配信は右のQRコードから認知症の人と家族の会ホームページで視聴できます。

認知症や地域の高齢者に関する相談は、地域包括支援センター（☎69-7117）まで。



9/21 市役所前駐車場



認知症支援のシンボルカラーであるオレンジ色にライトアップした旧制木造中学校講堂を紹介する世話役の秋田谷さん(右)

向陽小児童たち プロの技術を肌で感じる

10/5 向陽小学校



駒沢選手からシュートのアドバイスを受ける児童たち

向陽小学校（木村修治校長）で「ドリーム・スクール・キャラバンバスケットボール教室」が開催されました。

この事業は、ジブラルタ生命が特別協賛し、未来を担う子どもたちに、夢を持ち夢に向かって努力することの大切さ、その努力を諦めることなく続けることで夢の実現に近づけることを伝えようと毎年全国各地で実施。今年は、本県から向陽小学校が選ばれました。

この日は、プロバスケットボールチーム「青森ワッツ」の駒沢颯選手、佐々木拓哉選手をはじめ関係者が小学校を訪れ、2年生と3年生に、ドリブル・パス・シュートの基本的な動きをアドバイスしました。最後には、プロ選手がダンクシュートを披露したほか、児童とのシュート対決も行われ体育館の盛り上がりは最高潮に。

バスケットボール部に所属する3年生の川田颯真くんは、「ドリブル・パス・シュートをもっと練習して上手になりたい」と目を輝かせていました。

郷土に誇りを持ってほしい

福土光俊さん（森田町）が、市の郷土史にまつわる書籍約300冊を市立図書館に寄贈し、郷土資料の一区画に「寄贈本コーナー」が設置されました。

元小学校長の福土さんは、本市の郷土資料の研究・整理において、永年にわたり市の文化振興に寄与しているとして平成30年度文化功労賞を受賞した経歴の持ち主。これまでいくつものつがる市の歴史にまつわる書籍の編集に携わってきました。

今回はその永年にわたる研究・整理に活用した数ある書籍の中から、選りすぐりのものを寄贈。福土さんは「本市の郷土研究における全ての根拠がここに詰まっている。埋没しないように、より多くの人に触れてほしい」と話してくれました。

つがる市の「教育」に恩返ししたい一心で、これまで多くの市民の郷土愛を育む土台を築いてきた福土さん。皆さんもその思いに触れてみませんか。

10/7 市立図書館



図書館の寄贈本コーナーの前で思い入れのある本を手にする福土さん(左)と葛西教育長(右)

図書館を使った調べる学習コンクール 研究成果を表彰



10/9 市立図書館

表彰された皆さん。左から穂波小6年須藤彩さん、瑞穂小6年菊地歩華さん、瑞穂小6年小田川琴音さん、柏小4年大山凌永くん

市立図書館では、調べることで子どもたちに自ら学ぶ力をつけてもらいたいと、第5回市立図書館を使った調べる学習コンクールを開催。4人の児童が、図書館を活用して研究を重ねレポートにまとめました。

この日、表彰式が行われ、研究レポートを完成させた児童4人に賞状や記念品が贈られました。最優秀賞には、三内丸山遺跡と市の遺跡の出土品について研究した瑞穂小6年菊地歩華さんの作品が輝き、全国コンクールに推薦されました。菊地さんは「校外学習で見学した遺跡が世界遺産に登録され興味を持った。分かりやすいようにイラストや写真を載せて工夫した。最優秀賞に選ばれて誇りに思う」と喜びを語りました。4人の力作は、市立図書館に春ごろまで展示します。ぜひご覧ください。

リモートでかかし作り 車力小と米軍が交流事業

車力小学校（佐々木康栄校長）の5年生児童と米陸軍車力通信所（ノリエル・リー所長）のメンバーが、かかし作りを通じて、友好を深めました。

7月8日・9日、今年はコロナ禍のため児童と車力通信所のメンバーたちは別々の会場をリモートでつなぎ、かかし作りに挑戦。5つのチームを編成し、児童たちは作りたいかかしのイメージ図を描き、車力通信所のメンバーたちはそれに基づいてかかしを制作。モニター越しにコミュニケーションを取り合いながら飾り付けをして完成させました。出来上がったかかしは、むらおこし拠点館フラットや松の館などで展示し、人気投票を実施しました。

10月13日には、その結果を発表し表彰しました。見事金賞に輝いたチームの秋田姫那さんは「金賞を受賞してとてもうれしい。米軍の人たちと直接会えなくて残念だったけど、協力して想像以上に上手に出来た」と振り返りました。

車力通信所のメンバーたちもモニター越しに児童たちへ「一緒にかかしを作ることができて楽しかった。ありがとう」と感謝を伝えました。



7/8 車力体育センター

児童のイメージどおりにかかしを作るリー所長

10/13 車力小学校



モニター越しにメンバーたちにかかし作りの感想を伝える児童たち

秋の火災予防運動 消防団が火の用心を呼び掛け



10/18 松の館駐車場

市民の安全を守るため火災予防パレードに出動する団員たち

「おうち時間 家族で点検 火の始末」を全国の防火標語とし、県下一斉で秋の火災予防運動が10月18日から10月24日まで展開されました。

この日は、市消防団（大淵則昭団長）による火災予防パレード出動式が松の館隣の駐車場で開催され、消防団員をはじめ関係者約60人と消防車両24台が集結。出動式では、倉光市長が「10月に入り、立て続けに建物火災が発生している。負傷者がいなかったことが不幸中の幸いであり、消火活動にあたった団員の皆様には感謝を申し上げます」と団員を激励。大淵団長から訓示を受けた団員は、一斉に消防車両に乗り込み、住民に火災予防を呼び掛けるパレードに出発しました。

【ストーブなど火を扱う機会が多くなる季節、火の用心を心掛けましょう】